

(2)
表
目
次

S 1.1.1.0-59

1500

65

REEL No. A-0270

0045

アジア歴史資料センター

31
31
2

極
祕

往
電
寫

總番二二三九六
符號
昭
和
十
五
年
七
月
十
五
日
後
十
時
分
發
主
情
一

在河内 鈴木總領事 有田外務大臣

佛印トノ政治軍事協定ニ關スル掲載禁止方ノ件

第一二八號（極祕）

往電第一〇九號ニ關シ

帝國ト佛領印度支那トノ間ニ政治又ハ軍事協定締結ニ關スル交渉
行ハレントシ又ハ行ハレツツアリヤノ件ハ之ヲ推測セシムルカ如
キ事項ト雖トモ外務省發表以外本月十四日以降新聞記事掲載禁止
方發令シ置ケルニ付御含置ノ上可然御取計アリ度

南京、廣東、上海へ轉電セリ

廣東ヨリ香港へ轉電アリ度

電信課作成

6 1.1.1.0 -59 1502 68

外務省

1504

70

外務省

1503

69

要

陰
十五
七
十五
歌三
三

揭載禁止事項三箇件

懷素

光緒十二年外務部令第21号
 光緒十五年七月
 十四日以後
 在記一週
 揭發禁止
 附一
 免一付內地商
 新開二周知方
 鄉取計相成度此
 報上信賴申進不

22

帝國ト佛領邦及左郡ト一箇ニ政治軍事協定締結
ニ因テ交渉行ヒント又ハ行ヒツ、アリヤノ件ハ
之ヲ推知セシムルガ如キ事項ト雖モ外溢在る意

機密

指示事項
（本内示は機密に格別を要するに付
外部に漏洩せざる様特に注意有）

一 指針禁止の趣意

其般支那向物資の佛印經由輸送禁絶情況視察
の爲佛印支那滞在の我派遣員に對し
最近佛印總督は印中の治安維持に依りては
共同路線を結成し且日中の経済的協力を付
協賛的取計を指すも可なる旨申出目下我
は佛印支那の重要支那に對し其件取決中

外務省

S 1.1.1.0 -59

1506

72

歐三

要正

三

指針禁止事項の周知件

本年 月 日 附報一様密令 字 号 以 下

申進し置かざる指針禁止事項の周知の禁絶取決中

（別添表其の儘添付ノ）

外務省

S 1.1.1.0 -59

1505

71

協定所を以て、前記の如き交渉は行はれんとし、又は
 行かれ、ある事案、外部に漏洩し、又は察知
 せらる、時は、第三国の干渉を誘致し、或は、
 線増を、内部に及ぼす、關係を、
 交渉を、
 七月十四日以後、事件に付、は、外務省當局、
 以外、一切、掲載を、禁止せしめんとす、ものなり

二、禁止の要否

(一) 右の取旨に基き、日本、佛印間政治軍事協定
(日本側は佛印側を爲の意向と見做す)
締結に當り、準備工作、交渉の開始経過、交渉
の内容、交渉成立、協定締結、協定内容等々の
事実及之を推知せしむるか如き記事及論議、
(二) 之を推知せしむるか如き事項の例

(イ) 佛印總督は之等が変遷現の政治的及
軍事的協定に於て、
日本と協力するの用意ある旨の記述

（イ）は左記の如き例に於て

8 1.1.1.0 -59 1508 74

76

坡道

75

五

電信寫

昭和15 二四二六〇 略

ワイシー 八月八日 倭發
省 九日後着

情 歐

松岡外務大臣

澤田大使

第六七五號

八日夕刊ハ左記記事ヲ掲ケタリ

外國新聞ニテ問題トセラレ居ル日佛關係ニ付政府筋ニ於テハ左ノ通
リ言明セリ

日佛政府ハ豫テヨリ極東ニ於ケル日佛協力ノ基礎ヲ確メヨトニ腐心
シ居リタルモノニシテ既ニ六月末現地當局間ノ取極ニ依リ印度支那
總督府ハ支那。印度支那間國境ヲ閉鎖シ之ト同時ニ印度支那日本間
ノ經濟協定ノ基礎準備ノ爲印度支那ニ經濟使節團派遣セラレタリ双

方ノ經濟ハ補足的關係ニ在ルヲ以テ兩者ノ接近ハ有益ナリ政治及經
濟上ノ日佛關係ノ調整ハ一般的ニハ駐日佛國大使ト日本外務大臣ト
ノ間ニ於テ最モ友好的ナル精神ヲ以テ極東ニ於ケル兩國ノ利益ト必
要 (des besoins) ヲ考慮シタル協定ニ到達セントスル共通ノ意思
ノ下ニ取行ナハレ居レリ

S 1.1.1.0 -59

1512

S 1.1.1.0 -59

1511

77

秘

仁

伊藤

電信寫

昭和15 二四二六八 暗
省 八月八日後發
九月後發
歐、亞、情

丸

昭和15 二四二六八 暗
省 八月八日後發
九月後發
歐、亞、情
松岡外務大臣
澤田大使

往電第六七五號政府筋發表ニ關シ八日「ボードアン」外相ニ尋ネタル處本問題ニ付テハ松岡大臣ヨリ「アンリー」大使ニ御話アリタリ當初嚴重ニ機密ヲ保ツヘキ旨ノ御希望アリ自分（外相）トシテモ事作戦ニ關スルコトナレハ右要求ノ當然ナルヲ認メ從テ主トシテ「ベタン」元帥ニノミ相談シテコトヲ決スルコトト致シ居リ爲ニ新聞等ニモ嚴重ニ之ヲ發表セシメザリシコトハ貴大使モ御承知ノ通りナリ然ルニ獨伊側ノ「ラデオ」放送ヲ始トシ東京「ユウ、ビー」通信ト

シテ本件交渉ノ行ハレ居ルコト並ニ其ノ實際通過要求等ノ内容ニ付テモ外國新聞ニ相當詳シキ報道傳ハリ之カ爲佛國ハ日本ヨリ最後通牒ヲ受取リタリ等ノ噂モ傳ハリ當地滞在中ノ議員連中ヨリモ兩三日來種々質問ヲ受クルニ至リタルヲ以テ其ノ手前右様發表スルニ至リタル次第ナリ但シ日本政府ノ御迷惑ニナラサル様心掛ケ以テ問題ハ六月末ノ申合セヨリ始マリ居リ特ニ新シキコトニアラサル趣旨ヲ強調シ兩國ノ極東ニ於ケル經濟及政治的關係緊密化ヲ圖ラントスルモノニ外ナラサル趣旨ヲ國民ニ知ラシムルト共ニ愈協定成立シ發表ノ際驚カサル様今ヨリ國民ニ心準備ヲ爲サシメ置ク積リニテ發表シタルモノナル旨説明シタリ（了）

S 1.1.1.0-59

1514

S 1.1.1.0-59

1513

78

電信案

外務省

ヘタリ

スルモ兎ニ角案文ニ付本國政府ニ諒訓スヘント述

テ日本軍進駐ノ直後ニ為スヲ可トスヘント思考

ヲ不必要ニ利戟スルコトナキ所此ノ種発表ハ凡

発表シタキ考ナリト述ヘタルニ大使ハ支那側

(井) 如キ現地日佛軍當局共同「コミュニケ」ヲ

別電ニニニ

(原議用紙乙)

6 1.1.1.0 -59 1516 79

29460

主管 歐亞局長

主任 第三課長

昭和十五年九月三日 起草

電信課長

發電係

在佛(ビシー) 澤田大使

佛印問題ニ關スル発表方ノ

件名

第四〇七號 (極秘)

往電第 〇〇〇 會談ノ際次官ヨリ當省

ニ於テハ現地交渉成立ニ先立テ本館(井) 報

発表ヲ奉ル 現地ニ於テハ交渉成立ト同時ニ

電 信 案

外 務 省

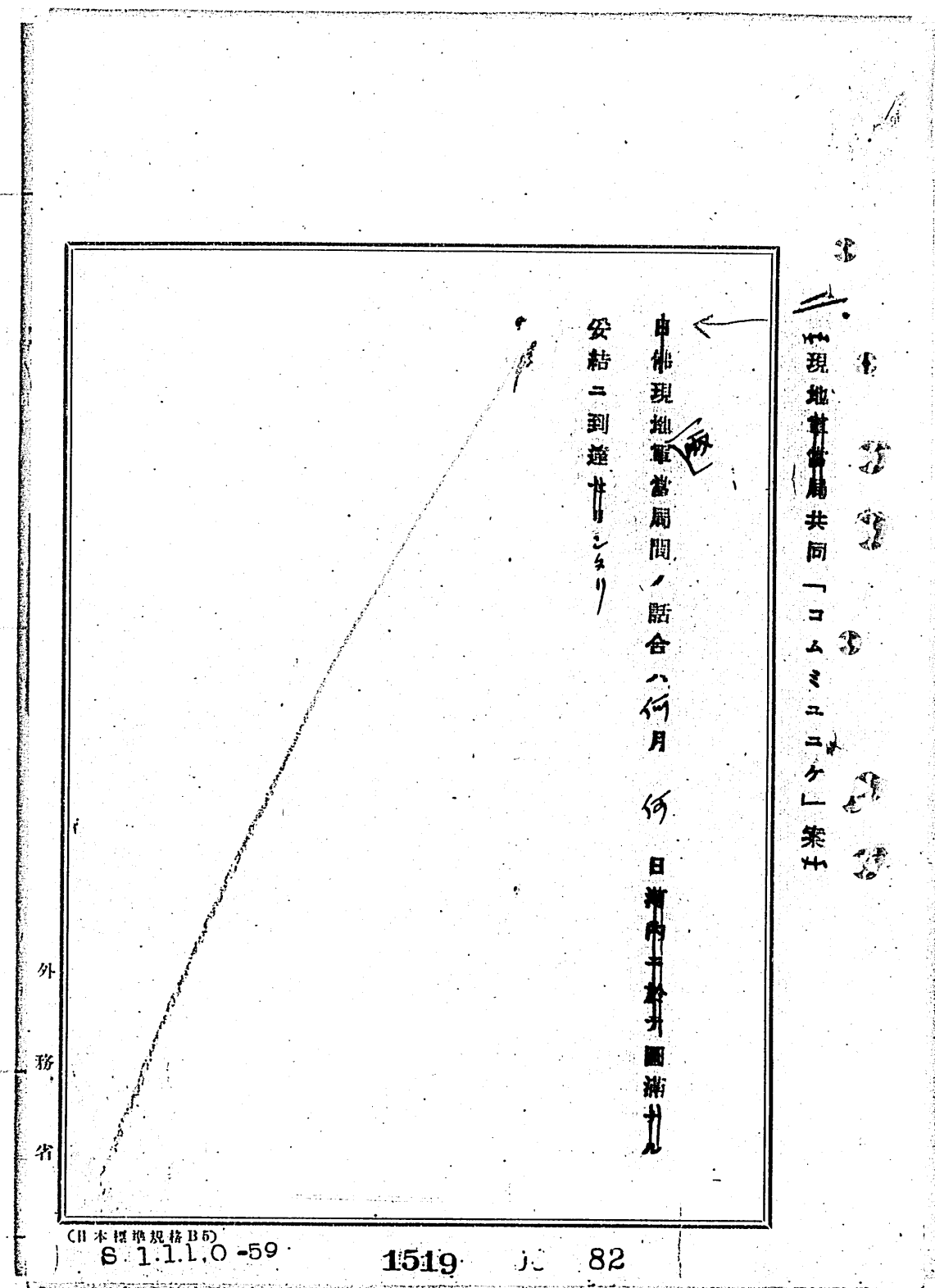
(日本標準規格B5) 6 1.1.1.0 -59 1515

外務省
 電信課長
 主任 第三課長
 昭和十五年九月三日起草
 電送第 29457 號
 15. 9. 3 日 16 時 0 分 發
 件名 宛
 在佛 (フー) 宛
 沢田 七 使
 佛印問題之調査報告
 件名 配録件名
 松岡 七 氏
 別紙一及二通
 第 ① 〇 八 號
 外務省發表案
 東亞新秩序建設及支那事變解決ニ資スル目的ヲ以テ佛印問題ニ關
 スル基礎的交渉ハ未ル八月東京ニ於テ松岡外務大臣ト「アンリ
 ー」在東佛駐大使トノ間ニ友好的精神ヲ以テ行ハレタルカ右ニ基
 中爾來引續キ佛印現地ニ於テ雙方當局間ニ交渉繼續中ナリ

日本標準規格 B5
 S 1.1.1.0 -59 1518 元 81

電信課長
 主任 第三課長
 昭和十五年九月三日起草
 電送第 29457 號
 15. 9. 3 日 16 時 0 分 發
 件名 宛
 在佛 (フー) 宛
 沢田 七 使
 佛印問題之調査報告
 件名 配録件名
 松岡 七 氏
 別紙一及二通
 第 ① 〇 八 號
 外務省發表案

日本標準規格 B5
 S 1.1.1.0 -59 1517 元 80



極秘

仙印見
記す事止

電信寫

昭和15 二七一九九 陸 東京 九月五日午後
本省 五日 夜着 亞、信

松岡外務大臣 花輪總領事

第二八六號 (極秘) 本官發在支各總領事及香港、石家莊、徐州宛電報 (大至急)

合條一三九號

日本軍佛領印度進駐ニ關スル件ハ當局發表以外新聞掲載及通信ヲ一切禁止取計方軍報道部ヨリ依頼アリタルニ付然ルヘク御取計相成度シ

本電宛先在支各總領事及香港、太原、石家莊、徐州大臣、滿ハ電達セリ

秘

電信寫

昭和15 二七二七六 陸 北京 九月六日前發 情、亞、歐
本省 六日 夜着

松岡外務大臣 土田參事官

第六八五號

本官發天津、張家口、厚和、石家莊、太原、濟南、徐州、青島宛電報

合條四一二號

佛印ニ對スル日本ノ實力行動ニ關スル事項若ハ失レテ示唆スルカ如キ事項ニ關シテハ當局發表以外新聞記事掲載並ニ通信禁止方取計相成度シ

天津ヨリ山海關、張家口ヨリ大同ハ電報アリタシ
大臣、上海、南京ハ電達セリ

S 1.1.1.0-59

1521

84

S 1.1.1.0-59

1520

83

日印交渉之修訂あり

九月一日アリ（七使持参）
島本入知事文

東亞新秩序建設ト支那事変解決ニ資スル為ニ
佛領印度支那ニ関スル根本問題ニ付キ先月中
最モ友誼的雰囲気ノ内ニ松岡外相ト「ネルセ」ス、アンリ
佛國大使ノ間ニ交渉ヲ進メタ

依テ帝國政府ニ於テ日本國が極東ニ於ケル佛蘭西國
ノ權利及利益特ニ印度支那ノ領土保全並ニ印度
支那聯邦ノ全部ニ對スル佛蘭西國ノ主權ヲ尊重スル
保障ヲ佛蘭西國政府ニ與ヘラレタ

又佛蘭西國側ニ於テハ日本國ノ陸海軍ノ軍事行動
ノ為ニ全軍ニ對シ印度支那ニ於ケル特種ノ便宜供與ハ
テ帝國政府ニ與ヘルコトヲ承諾致シマシタ

佛國大使館

右軍事上ノ便宜ニ付キ全問題ノ細目ヲ決定スルタメニ
河内ニ於テ日佛軍當局ノ間ニ交渉ヲ開始サレ愈々
九月 日印満ナル協定ヲ遂ゲタ

日佛双方同時入兵協定表

S 1.1.1.0 -59

1523

S 1.1.1.0 -59

1522

85

En vue de contribuer à l'établissement de l'ordre nouveau en Asie Orientale et à la solution des affaires de Chine, des négociations sur les questions fondamentales concernant l'Indochine Française ont été poursuivies à Tokio, au cours du mois d'Août dernier, dans une atmosphère très amicale, entre Mr. Y. Matsuoka, Ministre des Affaires Etrangères et Mr. Arsène Henry, Ambassadeur de France.

Le Gouvernement Japonais a donné au Gouvernement Français l'assurance qu'il entend respecter les droits et intérêts de la France en Extrême-Orient et notamment l'intégrité territoriale de l'Indochine et les droits souverains de la France sur toutes les parties de l'Union Indochinoise.

De son côté le Gouvernement Français a consenti à accorder au Gouvernement Japonais pour l'Armée et la Marine Impériale des facilités spéciales en Indochine pour la poursuite de leurs opérations.

Des pourparlers en vue de régler le détail de ces facilités d'ordre militaire ont été tenus à Hanoi entre les autorités militaires japonaises et françaises qui sont arrivées le 1^{er} Septembre à un accord satisfaisant.

九月十一日
ハ
ア
ン
リ
ー
大
使
持
参
會
議
松
岡
外
相
主
持
日
本
海
軍
上
陸
部
長
加
藤
少
將
主
持
日
本
海
軍
少
將
主
持
日
本
海
軍
少
將
主
持

要
三
回

歐
三

S 1.1.1.0 -59

1524

86

佛印問題ニ關スル昭和十五年九月九日
松岡大臣・在京佛國大使會談要領

「佛印問題取極ニ關スル發表文ノ件」

「アンリー」大使ハ日本側カ發表文中ニ領土保全及主權尊重ノ點ヲ明示スルコトヲ肯シセラレサルトキハ日本ノ意圖ニ關シ疑義ヲ懷カシムヘントテ是非共右ノ明示承諾方懇請シ別紙發表文案ヲ提示セルニ依リ本大臣モ大局的見地ヨリ之ニ同意シ我軍進駐開始ノ直後右發表ヲ日佛双方ニ於テ行フコトナレリ

ニ現地交渉妥結促進方ノ件

本大臣ヨリ我方ハ現地交渉ノ迅速ナル妥結ヲ期待シ右發表文ニ付テモ大局的見地ヨリ讓歩ヲ敢テセル次第ナルニ拘ラス現地佛領ハ種々辭ヲ設ケテ遷延ヲ策シ居ル如キ印象ヲ與ヘ居ルニ付速ニ現地交渉ヲ最終的ニ妥結セシムル機佛印總督ヲ督勵セラレ度シト云ヒタルニ大使ハ迅速妥結ノ要アリトノ點ニ付テハ全ク同意ナリト述

外務省

日本標準時(B5)

8 1.1.1.0 -59

1525

00 87

極秘

總番三〇二二七
三〇二三〇

符暗

昭和十五年九月十日 午後九時十

分一
管主

電信課作成

在「ヴィシー」 澤田大使

松岡外務大臣

佛印問題ニ關スル件

第四一七號(至急、極秘)

「佛印問題ニ關スル取極ニ關シ何等ノ發表ヲモ行ハサルトキハ我軍佛印進駐ノ場合蔣又ハ第三國ヨリ日本ノ侵略云々宣傳スヘキニ付適當ノ機會ニ或程度實情ヲ發表スルコト可然ト思考シ先般「アンリー」大使ヲ通シ佛側ヘ提示シ置キタル發表案ニ付佛側ニ於テハ東亞新秩序建設及支那事變解決云々ノ字句ヲ避ケ度シ領土保全及主權尊重ノ點ヲ明記セラレ度シ(日本側力之ヲ承諾

往電寫

8 1.1.1.0 -59

1526

00 88

セハ佛側ハ軍事的便宜供與ノ點ヲ明記スルコトニ同意スヘシ
等主張シ種々折衝セルカー「アンリー」大使ハ九日本大臣ニ對シ
領土及主權尊重ノ明示ヲ肯ンセラレサルトテハ日本ノ意圖ニ關
シ疑惑ヲ懷カシムヘシトテ是非共有承諾方懇請セルニ依リ本大
臣モ之ニ同意シ我軍進駐開始ノ直後要領別電第四一八號ノ發表
ヲ日佛双方ニ於テ行フコトナレリ
ニ尙某ノ除本大臣ヨリ我方ハ現地交渉ノ速ナル妥結ヲ期待シ右發
表文ニ付テモ譲歩ヲ敢テセルニ拘ラス現地佛側ハ種々辭ヲ設ケ
テ遷延ヲ策シ居ル如キ印象ヲ受ケ居ルニ付速ニ交渉ヲ最終的ニ
妥結セシムル様佛印總督ヲ督促セラレ度シト云ヒタルニ大使ハ
迅速妥結ノ要アル點ニ付テハ全然同感ナリト述ヘ居タリ

S 1.1.1.0-59 1527 89

三本件解決是レ以上遷延スルトキハ不測ノ事態ヲ惹起スルノ虞アル
ニ付貴使ハ佛印總督ヘ急速妥結方訓令アル様至急佛側ニ申入
レラレ度シ尙若シ先方六日ノ越境事件ニ言及シタル場合ニハ右
ハ事情ヲ知ラサル一小部隊ノ誤解ニ基クニ過キス既ニ現場ニテ
圓滿解決セル次第ナルニ付之ヲ口實トシテ現地交渉ヲ遷延セシ
ムル理由ナキ旨應酬セラレ度
別電ト共ニ河内ニ轉電セリ

S 1.1.1.0-59 1528 90

祕

總番三〇一八四
符照十五
和十五年九月十日午後八時卅分發
管陸三

電信課作成

在グイシー 澤田大使
松岡外務大臣

佛印問題ニ關スル件(別電)

第四一八號(至急)

往電寫

支那事變解決及東亞新秩序建設ニ資スル目的ヲ以テ佛印ニ關スル基礎的話合ハ去ル八月中東京ニ於テ松岡大臣「アンリー」大使間ニ友好的精神ヲ以テ行ハレタルカ日本ハ極東ニ於ケル佛國ノ權益ヲニ佛印ノ領土保全竝ニ同聯邦ノ全部ニ對スル佛國主權ヲ尊重スル意嚮ヲ有スル旨ノ保障ヲ佛國ニ與ヘ佛國ハ佛印ニ於テ日本陸海軍ニ對シ作戰行動遂行上必要ナル特殊ノ諸便宜ヲ供與スヘキコト

ヲ承諾セリ

右軍事上ノ便宜供與ニ關スル具體的決定ヲ行フ爲河内ニ於テ行ハレ居タル日佛軍當局間ノ話合ハ何月何日圓滿妥結セリ

S 1.1.1.0 -59 1530 92

S 1.1.1.0 -59 1529 91

修正
手少
字

佛領印度支那
修正手少字

昭和九年十月
記

東亞新秩序建設及支那事變解決ニ資スル目的ヲ以テ佛領印度支那ニ
關スル基礎的結合ハ去ル八月中東京ニ於テ松岡外務大臣ト「アンリ
I」在京佛國大使トノ間ニ友好的精神ヲ以テ行ハレタルガ我方ハ極
東ニ於ケル佛國ノ權利及利益特ニ印度支那ノ領土保全並ニ同聯邦ノ
全部ニ對スル佛國ノ主權ヲ尊重スル意嚮ヲ有スル旨ノ保障ヲ佛國ニ
與ヘ佛國側ハ帝國陸海軍ニ對シ其ノ作戦行動遂行并ノ爲必要ナル特
殊ノ諸便宜ヲ印度支那ニ於テ供與スヘキコトヲ承諾セリ
尙右軍事上ノ便宜供與ニ付具體的取極ヲ行フ爲河内ニ於テ日佛軍當
局間ニ話合行ハレ居タル處九月 日圓滿妥結ニ到達セリ

外務省

(日本標準規格B5)

S 1.1.1.0 -59

1531

93

極秘

電信寫

昭和15 二八二一〇 (暗)

壽府 九月十四日後發
本省 十五日前着

松岡外務大臣

小林局長代理兼總領事

第二二三號 (館長符號抜)

(冒頭脱)

本問題ニ關シテハ當國新聞ノ報道振モ區々ニシテ真相判明シ居ラ

サルカ如クナルカ何レカト言ヘハ我方カ歐羅巴ノゴタゴタニ乘ジ

佛印ヲ物ニシ更ニ之ヲ足場トシテ南方ニ猿臂ヲ延サントスルモノ

ナリト考ヘ居ル者多ク又當國新聞ノ轉載スル外國通信ニ依ルモ英

米側ニテハ之ヲ惡用シ殊ニ米國ハ我方ノ佛印進出ヲ理由トシテ對

日壓迫措置ヲ強化セントシツツアルカ如ク見ユルニ付テハ佛側ト

ノ約束モサルコト乍ラ我方作戰及日佛印今後ノ協力ニ支障ヲ及ホ

ササル限リ然ルヘキ方法ニテ我方ハ佛國政府及佛印當局ト完全ナ

ル合意ノ上ニテ行動シ居ル旨ヲ知ラシメ以テ第三國ノ干涉スヘキ

筋合ニアラサルヲ示スコト肝要ナルヤニ認メラル種々事情ハ御ア

リノコトト存スルモ當地ニテ感スル儘ヲ爲念

在歐各大使、米へ轉電シ、佛へ轉報セリ

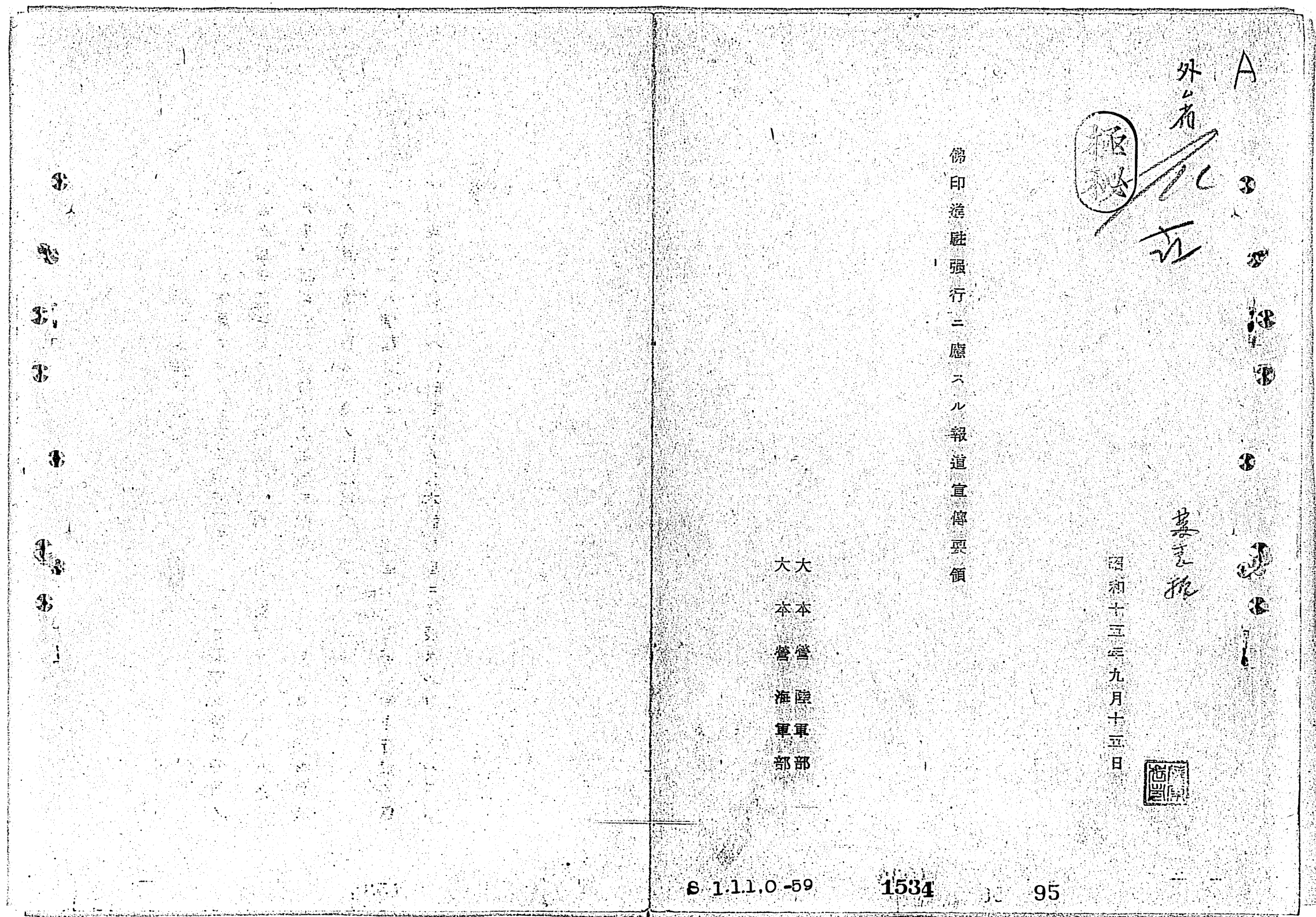
S 1.1.1.0-59

1533

S 1.1.1.0-59

1532

94



A

外着



正

佛印道融強行ニ應スル報道宣傳要領

幕末

昭和十五年九月十五日



大本
大本
營營
海陸
軍軍
部部

S 1.1.1.0 -59

1534

95

REEL No. A-0270

0066

アジア歴史資料センター

計畫策定ノ基礎

本計畫ハ佛印當局カ我カ要求ヲ拒否スルノ態度ヲ固守シ圓滿妥協ノ
見込無ク且中央ニ於テ進駐ヲ強行スルノ決意決定セル場合ニ應スル
モノナリ、而シテ進駐強行ノ目的ヲ差當リ我カ方ヨリ提示セル要求
事項ノ貫徹ニ値キ佛印當局ノ同意反省ヲ期待スルモノトス
但シ佛印當局ノ態度如何ニ依リテハ北部若クハ全佛印武力行使ノ餘
儀ナキニ到リ遂ニハ佛印問題ノ根本的處理ニ進展スルコトアルヲ願
應ス

S 1.1.1.0-59

1535

96

方針

差當リ印務監督カ東京ニ於ケル松岡、「アンリー」閣ノ友好的精神ニ基キ成立セル東京交渉ニ違背シ故憲ニ強固交渉ノ遂行ヲ要シシク九月 日成立ノ速ヒニ到レル現狀協定ニ違シ之ヲ實行ヲ回還スルノ態度ニ出テツツアリ

而モ軍事上ノ必要ハ事關遲延ヲ許ササルニ立テ到レルヲ以テ遂ニ實行スルモノナルモ印務ノ強固自強ニ依リ平和極ニ進出並行後ノ交渉妥協ヲ期待スルモノナルコトヲ聲明ス

若シ印務當局カ武力ヲ以テ強固進出ニ抵抗シ不許事ヲ遂行スルコトアラハ其實印務側ニ在ルト共ニ新ノ如キハ印務側ヲ拘束ガラシムルモノニシテ兩國ノ爲ニ違背不許事ハ之ヲ強固

6 1.1.1.0 -59

1536

97

要 綱

一、「グイシー」ニ於ケル佛外務大臣澤田大使間東京ニ於ケル松岡デ
ンリー」大使間ニ成立セル友好親善の交渉並九月四日成立（福邸
協定ヲ除ク）ヲ見タル現地交渉ノ遅滞ト佛印當局ノ弄シタル遅延
策ヲ指摘シ帝國ノ中央及現地當局カ飽忍シ國體安寧ヲ圖リシ
次第ヲ明カニシ我カ軍事ノ必要上（重慶ノ雲南兵力集中佛印國境
侵犯等ヲ特ニ強調ス）事應交渉ノ遅延ヲ許ササルヲ以テ既ニ成立
ヲ見タル約諾ヲ實施ニ移ササルヲ得サルト進駐カ平和裡ニ進歩ス
ヘキヲ期待シアルコトヲ強調ス

二、佛印當局ニ對スル我カ要求ハ東亞ノ共存共榮ヲ基礎トスル支那事
變遂行ニ必要ナル純作戦上ノ要求ナルコトヲ強調シ前項ト相俟ツ

三

テ我カ進駐強行カ侵略的意圖ニ基クニニアラサルコトヲ明カニ
ス
將ニ佛印總督カ重慶其他ノ爲ニスル策謀ニ乘セラレ姑息ナル遅延
策ヲ弄スルハ佛印自體ヲ危殆ナラシムルモノニシテ佛國ノ爲不辛
タルヲ指摘ス

三、我カ方ハ進駐ヲ自主的ニ遂行スルノ餘議ナキニ到リタルモ今猶其
目的ハ獨ニ提示セル要求ノ貫徹以外他意ナク佛印當局ノ誠意反省
ヲ期待シアルコトヲ強調ス

四、差當リ佛印ノ從來ニ於ケル敵性或ハ土民ノ獨立蜂起ヲ誘導スルカ
如キ挑戰的宣傳ハ差控ヘ我カ進駐ニ伴フ佛印ノ態度ヲ監視スル如
ク指導ス又過早ニ我カ國民感情ニ觸リ佛印ノ誠意協力ヲ困難ナラ

S 1.1.1.0-59

1538

S 1.1.1.0-59

1537

98

シメサル如ク留意ス

英日、佛印間ニ些少ノ紛争ヲ見ルモ宣傳ノ方針ニハ變更ナキモノト
ス。但シ逐ニ日、佛印全面の武力戦ニ立チ到リタル場合ハ戦ヲ失
セス佛印ノ不誠意、非法強行ニ原因シ逐ニ事態廣瀝戦敗行ノ餘儀
ナキニ到レルヲ執拗ニ侵襲シ佛印ニ對スル全面的攻撃宣傳ニ轉移
ス。

安南土民ノ獨立蜂起助成ノ宣傳ヲモ展開ス。其要領別冊（九月十
五日調製日、佛印向全面的武力衝突蜂起ニ對應スル報道宣傳計畫）
ノ如シ。

不逞匪徒ニ完了シタル場合ハ昭和十五年九月二日大平官海軍部
調製「佛印兵力進駐ニ關スル報道宣傳要領」ニ準據シ報道宣

傳ヲ實施ス

S 1.1.1.0-59

1540

S 1.1.1.0-59

1539

99

實施要領

實施ヲ概ネ三期ニ分テ

第一期（最後通牒ノ期限満了ヨリ進駐開始迄）

一、政府若クハ外務省ヨリ「ヴィシー」及東京ニ於ケル交渉及日、佛
印現地機關交渉ノ経緯ヲ發表ス

二、之ニ引續キ現地機關ヨリ現地交渉ノ経緯（流暢的ナラサル如ク留
意ス）及居留民監視員引上ケノ餘蘊無キ次第ヲ發表ス

第二期（進駐開始）

大本營ニ於テ進駐強行ニ關スル發表ヲ實施ス

時機ハ進駐軍ノ具申ニ依リ決定ス

第三期（進駐開始後）

第印當局ノ出方ニ應シ指導ヲ決定ス
武力衝突ヲ惹起シ全面的武力行使ヲ決定セラレタル場合ノ宣傳ハ
別冊要領ニ據ル

圓滿ニ進駐ヲ完了シタル場合ハ進駐軍及大本營ニ於テ別冊（九月
二日調製ノ報道宣傳取扱要領）要領ニ準據シ所要ノ發表ヲ實施ス

配布 先（陸軍側）

參謀本部 第二課、第六課、第七課、庶務課

陸軍省 軍務課、軍事課、情報部、防衛課

出 先 波、和集團、西原機關

總軍、甲策團、龍東軍

朝鮮軍、台灣軍

S 1.1.1.0 -59

1542

S 1.1.1.0 -59

1541

100

外省 B

極秘

日、佛印間全面的武力衝突遂起ニ對應スル報道宣傳要領

安部

昭和十五年九月十五日



大本
本營
海陸
軍軍
部部

S 1.1.1.0-59

1543

101

方 針

機ヲ失セス全面的攻撃宣傳ニ導シ武力衝突カ佛印當局ノ屢次ニ亘ル卑劣ナル破約ノ不誠意ト非法ナル武力抵抗ニ基因スルモノナルコトヲ徹底的ニ強調シ、帝國ハ支那事變處理ノ完遂、大東亞ノ和平確立ノ爲之ヲ阻害スル敵性佛印當局ニ對シ武力脅威ノ重大決意ヲ深ルノ餘蘄無キ次第ヲ闡明スルト共ニ我カ脅威ノ對象ハ飽迄敵性佛印當局ニ在リテ無辜ノ安南土民ニ非サルコト及佛印當局儼然從來ノ不誠意ナル態度ヲ捨テ且安南大衆ニ對スル非人道的態度ヲ改メテ帝國ノ國策ニ協調スルノ實ヲ示スニ於テハ之ヲ容認スルニ吝カナラサルヲ明カニシ以テ内外ニ對シ我カ武力行使ノ大義ニ即スル以所ヲ闡明ス

佛印土民ニ對シテハ特ニ優柔ニ努メ我ニ協力セシムル如ク指導ス

要スレハ安南人ノ獨立ヲ誘導ス

S 1.1.1.0-59 1545

S 1.1.1.0-59

1544

102

要 綱

一、今次事變勃發以來佛印ノ深リ來リタル緩蔭敵性行爲ノ事實ヲ指摘
シ帝國ノ事變遂行ニ重大ナル妨害ヲ加ヘタルコト
二、佛本國潰滅直後一時緩蔭行爲中止ノ懸望ヲ示シタルモ密ニ緩蔭行
爲ヲ圖リアリタル事實並我カ事變遂行ノ爲作戰上必要ナル一時的
進駐要求ニ對シ之ヲ容ルルカノ如キ姿態ヲ示シツモ帝國ノ隱忍
自重ニ乘シ裏面ニ於テ英、米、重慶等ニ勸キカケ帝國ヲ陥ルヘク
卑劣ナル術策ヲ弄シ屢次ニ亘ル公約ヲ蹂躪シテ遷延ヲ策スル等ノ
不誠意非紳士的態度ノ指摘

三、今次帝國ハ八月廿五日「アンリー」大橋外務次官間ノ約言、八
月卅日日佛間中央協定ニ基キ平和裡ニ進駐ヲ期待シアリタル所突

如非法ナル武力抵抗ノ舉ニ出テ遂ニ日、佛印武力衝突ニ到レルト
往年ニ於ケル佛ノ三國干涉ノ事例ヲ引用シ帝國カ佛ノ惡敵ヲ陷ム
コトナク隱忍紳士的態度ヲ以テ平和的交渉ヲ續ケ來レルコトヲ強
調シ以テ「帝國ヲ目シ相手ノ弱性ニ乘スル侵略國」呼ハワリスル
「デマ」宣傳ヲ討破ス

四、事變武力行使ノ餘儀ナキニ到レルモ帝國ノ目的ハ飽迄達當局ノ不
誠意ヲ膺懲シ之カ反省ヲ促ス

對英戰ノ遂行ヲ強化セントスルノ外他意ナキヲ主
張スルト共ニ特ニ土民ヲ我方ニ獲得スル如ク留意ス

之カ爲將來佛印處置ノ自由ニ拘束ヲ受ケサル如ク留意スルモ安南
民族ノ民族自主權ノ主張並被壓迫狀態ヨリノ民族解放ノ叫ビ新東

S 1.1.1.0-59

1547

S 1.1.1.0-59

1546

103

亞達設東亞解放ヘノ自發的協力等ノ與論カ自然ニ湧發スル如ク諒略宣傳ヲ指導ス

五列國ニ對シ帝國ノ對佛作戰ノ大義ヲ認識シ之ニ協調スル如ク德領スルト共ニ荷モ帝國ノ對佛印作戰ヲ妨害スル行爲ニ對シテ斷乎排蒙ノ用意アル旨ヲ強調ス

六今次對佛印作戰ハ帝國ノ歐洲戰爭介入ヲ意味スルモノニ非スシテ一テ支那事變遂行ヲ妨害スル敵性佛印ノ武力抵抗ニ對スル自衛的措置ニ端ヲ發シタル自主的戰爭タル事ヲ明カニス

七國民ニ對シテハ前各項趣旨ニ基キ今次戰爭ノ本質ト大義ヲ深刻ニ認識セシムルト共ニ之カ推移ニ伴ヒ發展スルコトアルヘキ皇國興廢ノ重大事應ニ對處シ得ル如ク國民一齊結束、皇軍、政府ニ信賴

シ時難超克ノ爲更ニ重大ナル決意ト覚悟ヲ促ス

之カ爲一切ノ施政ハ勿論言論機關ヲ擧ケテ佛印作戰ノ大義及皇國ヲ總ル事態ノ極メテ重大ナル點竝國內體制ヲ刷新シ高度國防體制ヲ一舉ニ確立スル如ク一億民心ヲ動員ス

實施要領

一、武力衝突ヲ惹起シ中央ニ於テ對佛印全面的武力行使ヲ決定スルノ
已ム無キニ到ラハ

(一)進駐軍ハ機ヲ失セス武力衝突ニ到レル經濟敵性佛印軍隊ノ徹底
的膺懲決意ヲ闡明ス

其發動時機ハ中央ニ於テ統制ス

(二)大本營ハ

ノ豫メ所要ノ幕僚ヲ派遣シ夫々陸海軍ノ報道宣傳ヲ掌握指導セ
シムルト共ニ進駐軍ノ報道ヲ強化ス

2 將ニ主要言論機關代表者ヲ招集シ豫メ極秘裡ニ陸海軍ノ報道
宣傳ニ關スル意圖ヲ明示シ全幅ノ協力ヲ要請ス

此際將ニ平和的進駐實施ト全面的武力行使決意ノ場合トノ報
道宣傳上ノ特質ヲ明カニス

3 武力衝突ヲ生起セハ屢次ノ破約非法抵抗ニ基因スル武力衝
突生起ト敵性佛印當局ノ膺懲決意ノ發表ヲ實施シ且大本營陸
海軍部報道部長談ノ形式ヲ以テ更ニ具體的内容ノ發表ヲ行フ

(三)一般ノ報道宣傳ハ進駐軍ノ聲明ヲ契機トシテ展開ス

(四)政府ニ對シ大本營ノ發表ニ次テ成ルヘク速カニ政府聲明、總理
陸海外大臣、内閣情報部長談ヲ實施シ日佛印交渉ノ經濟、帝國
ノ敵性佛印膺懲ノ決意、對佛印戰爭目的等ヲ内外ニ闡明スルト
共ニ言論、政治、經濟等各界ノ代表者ヲ招集シ政府ノ決意ヲ傳
ヘ全面的協力ヲ要求スル如ク要請ス

S 1.1.1.0 -59

1551

S 1.1.1.0 -59 1550

105

三 爾後陸海軍内報道宣傳擔任區分ハ概テ左表ニ依リ實施ス

五 大本營、外務省ハ夫々豫メ二十一日午後適時出先武官、公館ニ進駐強行ニ到レル經緯ト出先トシテノ之ニ應スル宣傳並全面的武力衝突ニ即應スル宣傳要領ヲ示シ進駐開始並全面的武力行使ノ決意ニ當リテハ機ヲ失セス出先ニ於テ大（公）使館聲明等發表セシム

之カ爲出先ノ聲明實施ハ豫メ約束セル簡單ナル通報ニ依リ指示ス

S 1.1.1.0 -59

1552

106

左表

區分	擔任	摘要
大本營	對內 對第三國宣傳ヲ主トシ對敵(含支那)宣傳ヲ援助ス	政府トノ連絡協調
進駐軍	對敵 對內 宣傳ヲ主トシ對第三國宣傳ヲ併セテ實施ス	
臺灣軍	對臺灣內宣傳ヲ主トシ 對南方第三國 宣傳ニ關シ大本營及進駐軍ヲ援助ス(含支那)	
支那派遣陸海軍(含陸軍香港機關)	對支宣傳ヲ主トシ 對第三國宣傳ニ關シ中央及進駐軍ヲ援助ス	
朝鮮軍	對鮮內宣傳ヲ主トシ一部對「ソ」宣傳ヲ實施ス	
關東軍	對滿洲國宣傳ヲ主トシ一部對「ソ」宣傳ヲ實施ス	
出先武官	對在任國宣傳ヲ實施スルト共ニ帝國ノ對第三國宣傳ノ反響ヲ報告ス	

8 1.11.0 -59

1553

107

軍部秘
米
仙
新

極秘

電信寫

S 1.1.1.0 -59 1555

昭和15 二八七三二 (一略) 華府 九月十九日午後發
本省 二十日發着 情 亞
松岡外務大臣
第一五〇一號 (一略) 秘
其電 (不明) 顯ニ顯シ
堀内大使

先日米露方面新聞ニハ、我軍一部、越境ニ伴フ交渉、頓挫及我方交渉決裂ニ他ヘテ居留民引揚ヲ用意セル旨、廿八日「デイ」ニ「佛政府」スガ「イタリヤ」日本軍ノ佛印占領ニ同意ヲ與メ、自ニ關スル含意ノ微否ニ拘ラス兵ヲ進メラルルコトヲ示リタルニ付テハ外國輿論皆莫ク見地ヨリ彼我ノ間ニ原則的ノ了解成立セルモ

レ、我軍ハ越境ヲ以テ平和維持ニ阻ラズシテ公平ナル手續ヲ履ミタルモ佛軍ノ態度愈々變シタル爲ニハラ特ニ對越境セル原則的ノ了解ニ基キ兵ヲ進ムルモノナルコト及右ハ軍事上の必要ニ基クモノニシテ茲再交渉ニ日ヲ費スミテ罷ハサルニ至リタル次第ヲ期待セシメラルルコト然ルヘシト思ヒタル爲方ニ於テモ必要ニ應ジ石ノ「ライオン」ニテ國務省及對越方面ノ警備ニ當リタキ急務ナル處ヨリ本省ニ於テモ佛印進兵ノ場合ニハ何等カノ形式ニテ聲明或ハ輸出ハ存スルモ對外的説明或ハ推廣ニ經一シ附クコト適宜ト認メラルルニ付右ニ關スル實見並急務同電相願フ

S 1.1.1.0 -59 1554